

うたくなー石垣島の2つの取り組み

2. 八重山の自然を楽しむ為に

令和元年6月8日

文：うたくなー石垣島

友利 宇宙（ともしひろし）

1. 八重山諸島特有の自然

八重山諸島は日本列島最南端に位置し、大小 20 島以上の島々で形成されています。

沖縄県最高峰の山脈と、世界屈指の海が織りなす豊かな自然に生まれ、

固有種が多く生息している事から、ダイビングやシュノーケリング、トレッキングなど、大自然を満喫できるアクティビティが人気で、年間 100 万人以上の観光客が訪れるリゾートアイランドとしても有名です。

2: 保護することで発展する

近年、八重山諸島は急激な経済発展を遂げました。

これは、私たち島民にとって誇らしい事である一方、自然環境への負担も大きくなっています。

昔は生きる為に、人の手で頂いていた自然の恵みも、機械が発達してきた今、

保護という感覚が無いと、本当に失ってしまいます。

自然環境と一口に言っても様々な要素がありますが、

私達うたくなー石垣島は、その中でも「夜空」に着目し自然保護活動を行っています。

経済発展と自然環境の保護は、対立する概念のように考えられがちですが、

「自然環境を保護する事で、経済が発展する」という選択肢があります。

3: 光の効率化

人工の光が生態系に影響を与える例としては、ウミガメの産卵が挙げられます。

ウミガメの赤ちゃんは浜辺でふ化した後に自力で海へ向かいますが、

波打ち際を照らす月明かりを頼りに海の方を判断します。

しかし、浜辺の近くに白い照明の街灯があると、間違って街灯の方へ行ってしまう事があります。

その街灯を、オレンジ色の照明に変える事で間違わずに海に帰れる確率が上がります。

また、渡り鳥をはじめ夜行性生物にとって、星空も大切な要素です。

眩しすぎる人工の光は車の運転に支障がでるなど人間にも影響があります。

夜空に人工の光が放たれなければ美しい星空が見られます。

昼夜のリズムは、人間を含む地球上の生物全てにとって欠かせないものです。

美しい星空の第一条件は「夜空の暗さ」であり、標高の高さや気温ではありません。

街灯に傘をかけて夜空を照らさないことで星空を楽しむことができます。

ライトダウンすることで、星空が八重山諸島の新たな観光資源としても注目されています。

光を無くすという考え方ではなく、光を効率良く利用する方法を考える。

これが「自然環境を保護する事で、経済が発展する」という、私たちの理想です。

4: 星空保護区

International Dark-Sky Association(インタナショナル ダークスカイ アソシエーション)、通称 IDA という国際団体(本部:アメリカ合衆国アリゾナ州)は、『夜の暗い環境を保護する』活動を行っています。

その IDA の活動のひとつ「Dark-Sky Place Program(星空保護区認定制度)」。
これは、光害(※)のない、暗く美しい夜空を保護・保存するための優れた取り組みを称える制度で、2001 年に始まって以来、現在では世界各国に 120 箇所以上の地域が認定されています。
日本では、八重山諸島が 2018 年に国内初の星空保護区に認定されました。

私たちは、2016 年 4 月に発足した「八重山諸島 星空 information H20 星空観光協力会」のメンバーとして、星空保護区の認定および促進、星空の魅力発信、良好な光環境の形成を目指した啓発などの活動を行っています。
私共のような小さなツアー会社から航空会社、リゾートホテルや船会社、等々、星空が大好きな人が集まった民間の団体です。

生態系の保全と、経済発展の両立の為に、自治体と協力しながら活動を行っています。
私たちが行う星空の保全活動が、八重山の自然環境の保護に繋がれば、これ以上ない喜びです。

(※)光害について

照明の設置方法や配光が不適切で、景観や周辺環境への配慮が不十分なために起こるさまざまな影響。

詳しくは、環境省 HP:「星空を見よう」(<https://www.env.go.jp/air/life/hoshizorakansatsu/index.html>)